

令和4年度学校評価(自己評価)結果

4・・・よくできた 3・・・できた 2・・・あまりできなかった 1・・・できなかった

通信制

番号	領域	評価の観点	評価項目	実践目標と成果・課題	R4年評価	R3年評価	意見・改善点 記入欄
1	学 校 運 営	開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信	学校のホームページやオープンハイスクールを通じて情報発信が的確に行われている。	3.1	3.3	・コロナ禍でありながら、発信できる部分は発信できた。 ・ホームページの改良ができなかった。 ・ホームページに「魚吹」を掲載していたが、イラスト等掲載の関係で現在アップしていない。来年度の課題である。
2				補助教材「魚吹」や「年次通信」の内容充実に努めている。	3.4	3.4	
3				保護者会や懇談会の案内等、保護者宛文書の内容が工夫されている。	3.1	3.1	
4			学校評議員制度を活用した学校運営の推進	学校評議員会の意見を学校運営に反映させている。	2.6	2.9	
5			地域や関係機関との連携	「地域とふれあう公開講習会」「地域グリーン作戦」等をとおして、地域との連携を深めている。	3.2	3.0	
6		生徒指導	生徒指導方針の明確化	年度当初に生徒指導方針を明確にし、職員・生徒に示すとともに、生徒の問題行動等に適切に対応している。	3.1	2.9	・行事等意識して取り組めた。 ・研修の内容を活用できたか疑問に感じました。 ・コロナ禍で縮小された行事もあり、今後工夫も必要に感じた1年であった。
7			生徒の理解を図る指導の工夫	カウンセリングマインド研修を生かし、生徒に接している。	2.9	3.2	
8				キャンパスカウンセリングを有効に活用している。	2.8	3.2	
9				面接やLHRにおいて生徒理解に努め、生徒の家庭環境や健康状態を把握し、個々の実情に応じた指導に努めている。	3.1	3.2	
10			生徒の自主・自立の精神を育む指導の工夫	スポーツタイム・新入生歓迎交流会等の生徒会行事や部活動に、生徒が自主的・自立的に取り組むように指導している。	2.8	3.1	
11		進路指導	進路指導体制の充実	「年間進路指導計画」を作成し、それに基づき組織的・計画的な進路指導を行っている。	2.8	3.1	・生徒と話す機会が少なく、進路についても一部の生徒しか話せなかった。 ・進路については生徒の声を待つのが基本になっていたように思います。 ・卒業予定者に対する声掛けが今後必要である。
12				通信制生徒の実態を踏まえ、進路情報を整理・充実を図り、生徒へ提供している。	2.9	3.1	
13			職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	通信制生徒の実態を踏まえ、インターンシップや個別面談を通して職業観や勤労観を育成している。	2.5	3.1	
14				通信制生徒の希望と実態に見合った「進路説明会」を実施している。	2.9	3.1	
15			主体的な進路選択能力の育成	総合的な学習の時間やLHR、生活体験発表会等の学校行事を通じて、生徒の進路選択能力の育成を図っている。	2.8	2.9	
16				「卒業予定者進路希望調査」等を実施し、個々の生徒に応じた進路指導が行われている。	3.0	3.2	
17		教職員の資質向上	実践的指導力の向上	レポートについての研修を行う等、教科指導を行うための自己研鑽に努めている。	2.4	2.8	・スクーリングやレポートの内容について他教科も交えて研修の場があっても良いと思います。 ・公開授業のような他の先生方のスクーリングを見る機会もあればと思いました。
18			計画性を持った研修の実施	進路・教務・生徒指導等、学校の諸課題について校内研修を計画的に立案・実施している。	2.8	3.0	
19				教員は研修に積極的に参加し、生徒の指導に生かしている。	2.9	3.0	
20			社会の変化に対応した教育観の育成	通信制課程の特性を考慮し、カウンセリングマインド研修や人権教育、特別支援教育に関する研修が行われている。	3.1	3.4	・コロナの影響もあり、行事での生徒の盛り上がりなどがトーンダウンしてきたように思います。 ・生徒の状態を把握し、声かけや見守りにより問題の未然防止に努めていく。
21		年次経営	通信制の実情に対応した学級経営の実践	オリエンテーションや「学習タイム」等への参加呼びかけを通じて、学習意欲の喚起・学習習慣の定着に努めている。	2.9	3.0	
22				年次通信等によりスクーリング・行事への参加を促し、学校生活への適応および仲間との交流を図り自己肯定感の向上に努めている。	3.0	3.2	
23				カウンセリングマインドに拠る個人面談等により生徒理解・指導に努めている。	2.9	3.1	
24				学校行事やLHRの参加を呼びかけ、社会性やコミュニケーション能力を高めるための取組を行っている。	2.9	3.0	
25				生活体験発表会を機会に自己を見つめさせ、自分の生き方や進路を考えさせるよう努めている。	3.2	3.1	
26				スクーリングや「学習タイム」等への参加を呼びかけ、学習習慣の定着と基礎学力の向上に努めている。	2.7	3.1	
27				卒業後の進路について考えさせ、個に応じて進路選択・決定を支援するよう努めている。	2.9	3.0	

令和4年度学校評価(自己評価)結果

4・・・よくできた 3・・・できた 2・・・あまりできなかった 1・・・できなかった

通信制

番号	領域	評価の観点	評価項目	実践目標と成果・課題	R4年評価	R3年評価	意見・改善点 記入欄	
28	教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	基礎基本の定着と問題解決的な学習の展開	レポートやスクーリングにおける面接指導が多様な生徒の実態に応じており、自学自習のシステムが「基礎基本の定着をはかり、自ら学び自ら考える力を育成する」ものとなっている。	2.9	3.1	・自分から発信できない生徒への支援が必要である。 ・質問に来た生徒に対応する範囲に留まっています。	
29		個に応じた学習指導	評価方法の創意工夫と指導形態の工夫	評価の規準や基準について教科内で話し合い、生徒の実態に応じたシラバス作成や生徒による授業評価による授業改善が行われている。	2.5	2.8		
30				オリエンテーション、「学習タイム」、質問等において、個に応じた学習指導が行われている。	2.9	2.9		
31	教育課題	危機管理	危機管理体制の充実	危機管理マニュアルや対応訓練の評価・改善に努めている。	2.9	3.0	・情報の発信はできますが、生徒の受け止め方がなかなか把握できないことが課題かと思います。 ・救急救命訓練・心肺蘇生法の職員研修、生徒対象講習会についてコロナ感染防止の観点から実施できなかった。 ・今年度全通合同での防災訓練が行われたことは良かった。今後も全通合わせての都合もあるが続けて欲しい。	
32				生徒の個人情報の管理が徹底され、漏洩防止が図られている。	2.9	3.1		
33		防災・安全教育	防災教育に係る指導力・実践力の向上	事前に打ち合わせを十分に行い、意識の高い防災教育を実施している。	2.8	3.1		
34				心肺蘇生法等の講習により、いかなる時もまず生徒の命を守るという意識と技術を高めるよう努めている。	2.3	2.3		
35			実践的な安全教育への取組	特別活動や授業等において救急救命訓練を行ったり、地域の学校や警察と連携し、「防犯教室」を開催したりするなど安全な学校づくりのための実践的な取組に務めている。	2.2	2.1		
36				補助教材『魚吹』や年次通信等において、系統的で実践的な安全教育に努めている。	2.7	2.9		
37		人権教育	人権教育体制の充実	人権教育委員会を開き、人権教育の改善・充実に努めている。	2.8	2.9		・情報の発信はできますが、生徒の受け止め方がなかなか把握できないことが課題かと思います。 ・LHRの題材が良く、有意義な機会となった。 ・LGBT等の対応が今後さらに必要とされる。
38			人権意識の構築	生徒が活動や体験を通して人権意識を身につけ「共生社会」の構築の意識を持たせ、自己実現できるよう工夫している。	2.6	2.8		
39		特別支援教育	校内支援体制の充実	校内委員会の設置、特別支援教育コーディネーターの指名、研修等、支援体制を整備している。	2.5	2.8		・担任するクラスによって体制が整っていると思います。 ・生徒の情報を共有し、全職員で支援していく。 ・中学校から引継ぎが行われていない。特に、中・西播地区以外から入学した生徒についての引継ぎを行って欲しい。
40			個別の指導計画	特別な支援を必要とする生徒について、個別の指導計画に基づいて適切に支援している。	2.5	2.6		
41	健康管理	生徒の健康管理への取組	生徒の健康管理への取組	健康診断や各種検診の受診率の向上を図り、生徒の健康管理に努めている。	3.0	3.0	・情報の発信量は豊富だと思います。 ・感染症予防対策、環境美化に取り組むことができた。	
42			生徒の健康に対する意識の高揚	面接指導や補助教材『魚吹』等をとおして、生徒が主体的に健康づくりに取組む習慣を身に付けるよう努めている。	2.9	3.2		
43			学校環境整備への取組	清掃活動により、校舎内外の美化・環境衛生の維持に努めている。	2.9	3.0		
44			安全管理体制の充実	定期的に施設・設備の安全点検を行い、事故防止対策が行われている。	2.9	3.3		
45	学校の個性化・多様化	生徒の多様化への対応	年齢構成や不登校経験生徒の割合等、毎年数量的なデータをもとにその対応を検討している。	2.7	2.8	・レポートやテストは内容を検討し改善できましたが、スクーリングは打開策が見つかっていません。 ・生徒の質がずいぶん変わったように思うので、組織対応が求められるように感じた。		
46			生徒の基礎学力をつけるために生徒の実態をもとにレポート内容やスクーリングの面接指導の在り方について検討を行っている。	2.8	2.9			
47			インスパイアハイスクール事業を受けて、学校の個性化・魅力化に取り組み、生徒の自己有用感、自尊感情の向上に努めている。	2.8	2.9			
48		外部機関との連携	県立神出学園、県立山の学校、出身中学校等と協力して指導に当たるよう努めている。	2.4	2.8			
49			若者自立支援に向けて地域機関やキャンパスカウンセラーと協力して指導に当たる体制が取れている。	2.4	3.3			
50	個別指導	教員の学習指導	添削指導	補助資料を作成し、生徒が自学自習をできるよう指導している。 各レポートを1週間以内に返却し、ていねいな添削を行っている。	3.2	3.4	・生徒の様子を観察し、変化に迅速に対応し、家庭と情報共有を心掛ける。 ・卒業年次という事で保護者と話すことも多く、保護者の悩みや考えを知る機会が多い1年でした。	
51			面接指導	各スクーリングにおいて効果的な指導を行い、生徒の学習理解を促進している。	2.9	3.2		
52			担任としての指導	担任クラスの個々の生徒の状況を把握し、悩みを開き、保護者と連絡をとりながら適切な指導を行っている。	3.1	3.2		
平均					2.8	3.0		